

『寺子屋』からスタートの 安全・安心で、絆と人情あふれる地域づくり

福智町赤池26区公民館【自治公民館】

館長 阿世賀 寛行

1. 事業名（テーマ）

- 学童登校見守り活動、生力(しゅうりき)寺子屋
- 安全・安心で、絆と人情あふれる地域づくり

2. 事業の目的

- 子ども達の「居場所」づくりと世代間交流の場づくり
- 地域住民の「集いの場」とつながりづくり
- 高齢者の日常生活を支援する「互助」の基盤づくり



【生力寺子屋学習風景】

3. 事業実施に至る経緯

生力ニュータウンは平成元年より宅地分譲が始まり、現在190世帯の新興住宅地。古くからの“地のつながり”がなく、地域のお世話役も旧赤池町の体育行事や夏の盆行事、秋祭りなどに積極的に参加し地域のつながりを強めようと尽力していた。

しかし、平成18年の旧赤池・金田・方城の3町合併を期に町民体育祭がなくなり、その他の体育行事や秋祭りも減少。そのため、地域独自で夏行事や年末行事を企画していたが、それらの行事は一時的なイベントであり、役員への負担が大きい割には日常的な地域住民のつながりを創り出すことには成功していなかったと思う。

4. 事業の内容

(1) 地域をつなぐ地域通信「生力の絆」の発行

中学校教師時代の学級通信の経験から、地域住民へのお知らせや共通の話題提供のため地域通信の発行を開始。当初は月2回程度の発行だったが、現在では週1回不定期の発行。「町や区の行事、区内の様子がよくわかり、貴重な情報源になっている」と楽しみにしている多くの住民に励まされ平成31年1月には200号発行を迎えた。

(2) 学童登校見守り活動から生力寺子屋へ

○学童登校見守り活動

退職後、地域住民と十分なつながりがない中での世話役活動のため、まず地域の子



【登校見守りの様子】

もたちとつながろうと考え登校見守り活動を開始。現在6年目で、1人⇒2人⇒2か

所4人(H27年7月)⇒現在、3か所6人+1匹、と発展。

○生力寺子屋～学習支援と世代間交流の場～

1時間の自学と自由時間でスタート。その後、町から卓球台を借用し卓球の時間を設けるとブームになり、子ども卓球大会の企画へ。

地域の人材を活用し特別企画を設け、世代間交流の場に発展させる。顔なじみのおいちゃんおばちゃんを増やすことで、子どもたちと高齢者の相互見守りの推進を図る。

〔寺子屋特別企画〕

・陶芸教室 ・茶道体験 ・詩吟体験 ・グラウンドゴルフ体験 ・子ども卓球大会



【子ども陶芸教室】

(3) 生力区三大大行事～集い、語らい、つながる

○春「お花見カフェ」

○夏「生力ふれあい納涼の夕べ」

第1部…落語を楽しむ会、ギターコンサート、
沖縄三線とピアノコラボコンサート

第2部…飲食を伴う大交流会

○年末「もちつき交流会」

日常的な小さな公民館行事を繰り返しながら大きな節目ごとに地域住民が“顔を合わせ、声を合わせ、力を合わせる場”を企画。



【落語を楽しむ会】

(4) 多様な行事で集いとつながりづくりの場を

○夏休み早朝ラジオ体操

○「生力ふれあい交流ひろば」(月1回)、「ふれあいバスハイク」(年1回)、「シニアいきいき健康体操」(月1回、新規)

○生力マッサージ院(月2回)

○学習会(年1, 2回) 防犯・防災・介護予防

○資源リサイクル活動(隔月実施)

○ホークス応援野球観戦ツアー(新規)

三大大行事の他に日常的にいろいろな行事を企画し住民の多様な要望に応えることで、より多くの住民が集う場づくりを工夫している。

月2回、毎月、隔月と繰り返し実施することであいさつや世間話ができる顔なじみの住民を増やし、安全・安心の地域づくりを進めることができている。



【もちつき交流会】



【ふれあい交流ひろば】

(5) 生力見守り隊

- 地域安全パトロール
- 学童登校見守り活動
- 高齢者ふれ愛訪問

平成29年6月18日に「生力見守り隊」を発足。毎月地域安全パトロール、学童下校見守り、夜間パトロールを繰り返している。

高齢者ふれ愛訪問で民生児童委員、在宅介護支援センター指導員と高齢者宅を訪問し、色々な困りごとの相談を受けている。



【「地域安全パトロール」集合写真】

5. 事業の成果

寺子屋の中で「私、生力に生まれてきて良かった！」と語ってくれた女子がいた。また、夏休み宿題作文「社会を明るくする運動について」で生力ニュータウンの地域活動と寺子屋について書いてくれた中学生男子がいた。「これまで顔も名前も知らなかった人と親しく話ができるようになった」という喜びの声がたくさん届けられている。誘い合って地域行事に参加してくる住民が増えた。

この6年間の事業の成果は目に見えるものがあり、地区外でも高く評価されている声を聞く。色々な実践を学ぶために他地域へ出かけ、交流を進めてきたため、他地区公民館とのつながりを強めることができている。

6. 今後の課題

- ・公民館行事への参加はそれでも5割程度の世帯にとどまっており、偏りがある。不参加の世帯から行政区や隣組を離れる世帯もある。集いの場へお誘いの取り組みを強める必要性を感じている。
- ・少子化で子どもたちが激減。平成31年度の小学校入学はゼロ。高齢化で約500人の住民中現在60歳以上が約200人(40%)、10年後にはさらに90人増加の見込み。
- ・成人して家を出た子ども世代が生家に戻らず、高齢者の独居や高齢者夫婦のみの世帯が増加。入院や施設入所の高齢者が相次いでおり、今後空き家の問題も深刻化すると思われる。
- ・災害時の助け合い、共助の体制を確立するとともに、日常的な見守りの「ハートフルキーパー」体制の早急な確立。
- ・お世話役や役員の後継者づくり。活発な公民館活動を維持できるような人材の育成と組織、体制の構築。

問合せ先

〒822-1101 福岡県田川郡福智町赤池 1017-167

福智町赤池26区(生力NT)公民館 館長 阿世賀 寛行

TEL:0947-28-6456